

2019年3月5日

報道関係各位

GMO フィナンシャルゲート株式会社

券売機での IC カード決済（EMV 対応）を実現 ～組込型マルチ決済端末でインバウンド需要の獲得までも可能に～

GMO インターネットグループの GMO ペイメントゲートウェイ株式会社の連結会社で、対面クレジットカードなどの決済事業を展開する GMO フィナンシャルゲート株式会社（代表取締役社長：杉山 憲太郎 以下、GMO-FG）は、“Unattended Market（＝自動販売・サービス機の総称）”向けの組込型決済端末シリーズの第 2 弾として、世界的な決済端末ベンダーであるフランスの Ingenico Group の日本法人 Ingenico Japan 株式会社（代表取締役：エリック・グルニエー 以下、Ingenico）と、組込型マルチ決済端末「iUC280」を共同開発いたしました。「iUC280」は、芝浦自販機株式会社（代表取締役社長：城所 宏、以下 芝浦自販機）のクレジットカード対応券売機「KC シリーズ」に組み込み、2019 年 1 月より飲食店やリラクゼーション施設、アミューズメント施設を中心に、展開いたしております。

「iUC280」は、券売機に組み込むことで、磁気式カードだけでなく、接触・非接触の IC チップ搭載クレジットカード決済（EMV^{※1} 対応）への対応を実現する組込型マルチ決済端末です。GMO-FG は国内の券売機業界においていち早く EMV 対応の決済端末を加盟店に提供いたします。都内では芝浦自販機の製品を導入している 2 店舗で稼働しており、今後も加盟店の拡大を見込んでいます。

（※1）EMV とは、国際カードブランドである Visa と MasterCard が策定した「IC チップ搭載クレジットカードの統一規格」のこと。両社の頭文字「M」と「V」、規格策定当時ヨーロッパで MasterCard ブランドを運営していた Europay International の頭文字「E」から「EMV」と名付けられた。

<「iUC280」と「KC シリーズ」の利用イメージ>

左から「KC-TX30IN」「KC-BX30IN」 / 「iUC280」（非接触 IC／接触 IC／磁気ストライプ）



【組込型マルチ決済端末「iUC280」の開発背景】

「改正割賦販売法^{※2}」が 2018 年 6 月に施行されて以降、対面・非対面を問わずクレジットカード決済を取り扱う加盟店（以下、加盟店）には、カード情報の非保持化や保護対策、カードの不正使用防止などの対応が求められています。店頭販売の加盟店においては、IC チップ搭載のクレジットカード（以下、IC カード）による決済が可能な EMV 対応端末の設置が義務付けられています。

一方、店頭加盟店における EMV 対応は進みつつありますが、券売機やコインランドリー、コーヒーマシンなどの自動サービス機や、自動販売機などの“Unattended Market”と呼ばれる領域においては、まだまだ対応が進んでいない状況です。

そこで GMO-FG では、2017 年 12 月から“Unattended Market”向けの組込型決済端末のシリーズ展開を開始し、現在では飲料自動販売機や自動精算機等での組込型決済サービスを開始しています。この度の Ingenico との共同開発による「iUC280」は、このシリーズの第 2 弾で、IC カードでの決済を券売機において実現するべく、券売機業界向けに提供いたします。まずは芝浦自販機と共同で、「iUC280」を組み込んだ EMV 対応のクレジットカード対応券売機を開発し、都内の飲食店 2 店舗での稼働を開始いたしました。

(※2) 2018 年 6 月に施行された改正割賦販売法では、カード情報の漏えい対策が強化され、原則として「カード情報の非保持化」をすることや偽造防止、不正使用対策として IC カードによる決済ができる端末を設置することが規定されている。

■ 需要の拡大する非接触決済への対応と、電子マネー・ポイント等の決済にも対応

昨今のクレジットカード決済において、簡単・スピーディーな点から非接触型決済の需要が高まっており、特に欧米において普及が始まっています。ロンドンの地下鉄では非接触決済「Visa タッチ決済」が日常的に利用されており、オーストラリアでは「Visa カード」の決済の 93%が非接触決済に移行しています^(※3)。

「iUC280」では、IC カードの接触決済はもちろん、非接触決済の「Visa タッチ決済」「Mastercard コンタクトレス」に対応しています。「iUC280」を組み込み EMV 対応したクレジットカード対応券売機を導入することによって、インバウンド需要の獲得も見込めるうえ、今後、日本での IC カードでの非接触決済の需要の高まりにも対応可能となります。

また、「iUC280」と、これを組み込んだ「KC シリーズ」では、順次国内の主要な電子マネーやポイントによる決済への対応を予定しています。

GMO-FG は、今後も利用シーンに応じた柔軟な決済サービスを提供してまいります。

(※3) VisaNet データ 2018 年 4 月～6 月より

【「iUC280」について】

「iUC280」は、磁気式カード、接触 IC カード、非接触決済にも対応しており、自動販売機・自動サービス機向けの組込型マルチ決済端末として、利用シーンに応じた柔軟な決済サービスを提供いたします。また安全基準としては、EMV や PCI PTS といった国際基準のセキュリティ要件も満たしています。

【「KC シリーズ」について】

KC シリーズは、飲食市場をはじめ日常の様々なシーンでご利用いただいている 27 インチ縦型タッチパネルディスプレイで、動画再生・音声機能搭載したお客様のニーズに沿ったフリーレイアウト対応などが可能な KC-TX と 7 インチ LCD パネルで動画再生・音声機能を搭載したボタン式 KC-BX 券売機です。尚、「iUC280」を搭載したクレジット対応券売機は、KC-TX_IN と KC-BX_IN です。

【GMO フィナンシャルゲート株式会社について】

GMO-FG は、対面店舗でのクレジット・デビット決済を軸とした決済代行業者として、1999 年 7 月の創業以来 20 年の実績と信頼を築いてまいりました。IC カード対応の共同利用センターとして、海外端末メーカーとのアライアンスを軸に、経済合理性とテクノロジーの先進性で業界の革新に取り組んでいます。据置・モバイルなどの CCT 端末（共同利用端末）に加え、病院・ゴルフ場向けの自動精算機等での組込型決済サービスも行っており、キャッシュレス化のチェンジリーダーとして社会に貢献してまいります。

【Ingenico Japan 株式会社について】

Ingenico Japan 株式会社は、フランス（パリ）に拠点を置き、世界 170 カ国で事業展開している、世界最大のシームレス決済ソリューションプロバイダーメーカー Ingenico Group の日本法人です。同社は、組込型、モバイル型、据置型、mPOS 端末、PIN パッド等の幅広い決済端末製品を中心に日本で展開しています。

【関連 URL】

・ GMO-FG コーポレートサイト <https://gmo-fg.com/>

以上

【報道関係お問い合わせ先】

● GMO フィナンシャルゲート株式会社 経営企画室 小泉
TEL : 03-6416-3881 FAX : 03-6416-3880
E-mail : sales_staff@mail.gmo-fg.com

● GMO インターネット株式会社
グループ広報・IR部 石井
TEL : 03-5456-2695 E-mail : pr@gmo.jp

【GMO フィナンシャルゲート株式会社】 (URL : <https://gmo-fg.com/>)

会 社 名	GMO フィナンシャルゲート株式会社
所 在 地	東京都渋谷区渋谷 2 丁目 12 番 19 号 東建インターナショナルビル本館 7F
代 表 者	代表取締役社長 杉山 憲太郎
事 業 内 容	■ クレジット、デビット、銀聯カード等の決済処理サービス事業
資 本 金	11 億円

【GMO ペイメントゲートウェイ株式会社】 (URL : <https://corp.gmo-pg.com/>)

会 社 名	GMO ペイメントゲートウェイ株式会社 (東証第一部 証券コード : 3769)
所 在 地	東京都渋谷区道玄坂 1 丁目 14 番 6 号 ヒューマックス渋谷ビル
代 表 者	代表取締役社長 相浦 一成
事 業 内 容	■ 総合的な決済関連サービス及び金融関連サービス
資 本 金	47 億 1,200 万円

【GMO インターネット株式会社】 (URL : <https://www.gmo.jp/>)

会 社 名	GMO インターネット株式会社 (東証第一部 証券コード : 9449)
所 在 地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代 表 者	代表取締役会長兼社長・グループ代表 熊谷 正寿
事 業 内 容	■ インターネットインフラ事業 ■ インターネット広告・メディア事業 ■ インターネット金融事業 ■ 仮想通貨事業
資 本 金	50 億円

Copyright (C) 2019 GMO Financial Gate, Inc. All Rights Reserved.